

教科 家庭

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 家庭生活を総合的にとらえる視点から指導計画を改善する。	○ 子どもの実態を的確にとらえ、題材で育成する資質や能力を明らかにして、内容相互の関連を図った題材の構成や配列を工夫する。 ○ 学年の発展性や中学校技術・家庭科（家庭分野）との関連を考慮し、ガイダンス的な学習内容を設定するとともに、2年間を見通した大まかな流れ（ストーリー性）のある指導計画に改善する。
指導の工夫	○ 日常の生活との関連を図り、実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習を充実する。 ○ 安全指導、安全管理の徹底と学習環境の整備を行う。	◎ <b>身近な生活の課題を見付け、解決する過程を大切にしたい問題解決的な学習や実践的・体験的な学習活動を工夫して、自分の成長を自覚できるようにする。</b> ○ 子どもの興味・関心や地域、家庭の実態に応じて、題材構成や使用する教材を工夫したり、課題を選択して追究できるようにしたりするなど、学習内容の選択の幅を広げる。 ○ 家庭生活への関心を高め、習得した知識や技能を実際の生活に活用することにより、実践する喜びや家族と関わる意味やよさについて実感できるようにする。 ○ 安全管理・安全指導に努めるとともに、学習環境の計画的な整備・充実に努める。
評価の充実	○ 個のよさを生かし、伸ばす指導と評価の一体化を図る。	○ その時間のねらいや学習活動に照らして、重点化を図った評価規準を設定する。 ◎ <b>様々な評価方法の中から、その場面における子どもの学習状況を的確に評価できる方法を選択するとともに、毎時間の学習状況を継続的に把握しながら指導に生かす。</b>

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業づくりのポイント1（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P3）  
単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫

◎ **身近な生活の課題を見付け、解決する過程を大切にしたい問題解決的な学習や実践的・体験的な学習活動を工夫して、自分の成長を自覚できるようにする。**

・ 自ら課題を見だし、身に付けた知識や技能を活用し、自分や家族の生活を工夫する問題解決的な学習の場を設定する。

【例】【題材の構想に当たっての配慮点】

- ① 事前には、自分の生活を振り返らせ、生活に結び付いた課題意識を高める。
- ② 学習課題の設定では、家庭との連携を図り、自分自身の衣食住に関する実態調査から学習課題をつくる。
- ③ 課題解決では、生活を実感できるよう日常生活との関連を重視した実践的・体験的な学習を重視する。
- ④ 題材の終末では、家庭と連携し、実践する喜びを味わわせる。

授業づくりのポイント6（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15）  
学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **様々な評価方法の中から、その場面における子どもの学習状況を的確に評価できる方法を選択するとともに、毎時間の学習状況を継続的に把握しながら指導に生かす。**

・ 授業の各段階で、自分が考えたこと、見つけたこと、疑問に思ったこと、うまくいかなかったことやその原因などを継続的に振り返ることができるようにする。

【例】学習カードや実習カードの記入欄を工夫し、それぞれの活動の中で、自分の考えや気づき、グループでの話し合い、深まった考えなどを自分の言葉で記入できるようにする。

※ 言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【小学校版】  
（平成22年12月 文部科学省）